

腸管出血性大腸菌（^{オー}O26）感染者の発生について

1. 患者の状況

- ・患者 砺波厚生センター管内 女性 (60歳代)
- ・経緯 6月14日(木) 職場で健康診断実施
6月19日(火) 検査機関にて腸管出血性大腸菌 O26 (VT1) 検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 無症状

2. 患者及び感染源調査

- ・感染者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・感染者家族等接触者の健康状況調査を実施

3. 対応

- ・感染者自宅等の消毒を指示
- ・感染者及び感染者家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、
十分洗浄消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食
べるときの箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考

(平成 30 年)

(平成 29 年：同時期)

(1) O157	0名	5名
(2) O26	3名 (本事例を含む)	4名
(3) O111	2名	0名
(4) 型不明	1名	0名

【報道機関各位へお願い】

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。